

消える殿堂

広島郵便貯金ホール

上

広島市内で屈指の大ホールが存廃問題で揺れている。日本郵政公社は、広島郵便貯金ホール（中区白島北町・千七百三十席）を来年三月廃止する方針を三月末に発表。広島厚生年金会館（同区加古町・二千一席）も昨年、廃止問題が浮上し、先行きは不透明だ。「百万都市から大ホールが消えるかもしれない」という二重の不安に、市民や舞台芸術の関係者の受けた衝撃は大きい。存続への道、代替策はあるのか。緊急リポートする。（片山明子、里田明美）

「来年夏の仮予約が口頭で 広島に固定ファンがでぎ始め断られた。どうすればいいの た直後、まさに寝耳の水の廃つてこつちが聞きたい」。毎 止発表だった。

波紋

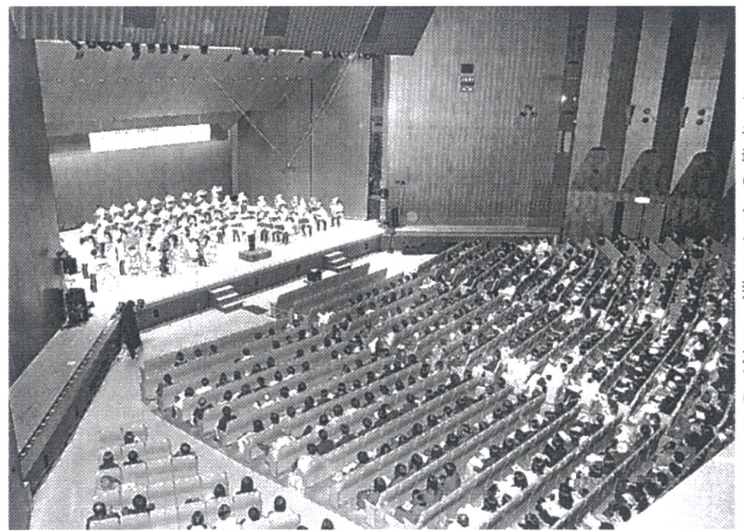
中国芸能の堀江公子社長（51）は、頭を抱える。歌劇団を上演できる代わりの施設が市内にないからだ。

■昨年は30万人利用

クラシックからポップス、演歌のコンサート、演劇、舞踊、ミュージカル…。貸しホールとして多彩な使われ方をする郵便貯金ホールは昨年、約三十万人が利用した芸術文化の殿堂だ。

日本ミュージカルを代表する劇団四季も長期公演。二〇〇三年の「キャッツ」は四カ月のロングランとなるなど、

1日、広島市立美鈴が丘高吹奏楽部の定期演奏会があった広島郵便貯金ホール。音響の良さでも親しまれている



代替会場の確保困難

〈郵便貯金関連施設の廃止〉 来年の日本郵政公社民営化に伴い、2007年度以降に黒字化が見込めない札幌郵便貯金会館など全国9カ所の施設を来年3月末で廃止する。ホールがある施設は、広島市の広島郵便貯金ホールと福岡市の福岡郵便貯金会館（1260席）の2カ所。福岡市には、2000人規模の大ホールが複数ある。

「いいほしい」と東京のイベント業者らに説明に行くことを決めた。

郵便貯金ホールは一九七二年、市民の誘致に促して開館。マリア・カラス、レイ・チャールズ、ウィーンフィル、美空ひばり…伝説的なアーティストも舞台に立った。

舞台責任者で元館長の青山幹生さん（71）は

「クラシック音楽から歌舞伎まで上演できる和洋折衷の設計。使い勝手の良さ

が身上だ」と指摘し「市民の舞台活動から商業公演まで幅広く親しまれた」と愛着を持つ。

■他ホールにも影響

公演地のマイナスイメージは当然、ホール側にも跳ね返

る。厚生年金会館も「会館の打撃を受ける都市は広島。東京でも話題になっている」と断言し、その行方を注視する。

「全国ツアー」脱落の恐れ

商業公演に絡む地元イベント団体は、代わりの会場確保に奔走。同規模の厚生年金会館には来年春以降の申し込みの問い合わせが相次ぐ。

昨年約三十四万人が利用した厚生年金会館の柳井清輝館長は「できる限り引き受けたが、すべては対応できない」と

いだが、すべては対応できない」と苦渋の表情を見せる。郵便貯金ホールを使わない

だ。確実に会場を押しさえられない広島が、全国ツアーの日